

レファレンスに基づく活きた蔵書構成

※レファレンスの集計・分析をもとに選書続けた結果（レファレンスの推移と内容の変化の事例）

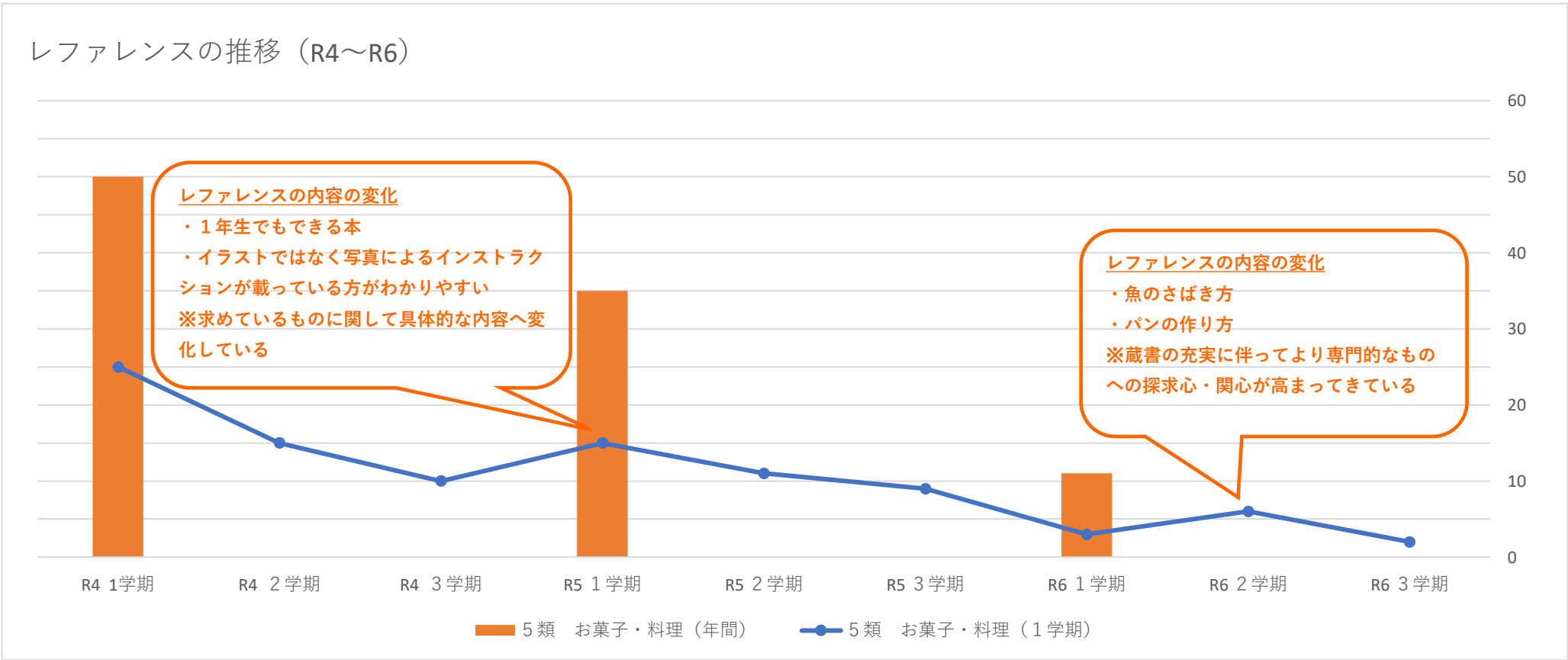
	R4 1学期	R4 2学期	R4 3学期	R5 1学期	R5 2学期	R5 3学期	R6 1学期	R6 2学期	R6 3学期
5 類 お菓子・料理（1 学期）	25	15	10	15	11	9	3	6	2
5 類 お菓子・料理（年間）	50			35			11		
5類 蔵書冊数／構成比	511 / 4.4%			626 / 4.8%			694 / 4.9%		
596 蔵書冊数／5類の中での構成比	79 / 15%			129/ 20%			160 / 23%		

レファレンスをもとに選書への対応策として

冊数について・・・増やす、新しいものへ入れ替えていく

種類について・・・スイーツ、和菓子、料理、包丁を使わない簡単な料理、食文化、食品ロス、昆虫食

内容について・・・1 年生でも作れる内容にものをふやす、イラストではなく写真によるインストラクションがわかりやすい、世界の料理（外国籍の児童生徒用）、調べ学習用（古いものを買い替える）



3年間の推移でわかったこと

折れ線グラフの数値が上がるポイントに児童の探求的要望が出てきている
蔵書を増やすとレファレンス件数が下がってくる（求めている本に自分でたどり着けている）
蔵書構成の充実により児童の興味関心はより専門的なものへと探求されていく
新しく入れた蔵書は3 年目くらいで読みつくされる様子→さらに新しい情報が求められる（入替のタイミング？）
興味関心のある分野を掘り下げていく児童とほかの分野へ関心が移っていく児童などレファレンスも枝分かれしていく
児童数が多いので人気のある本は複数冊蔵書しておいてもよい